

熊本県科学研究所物展示会

歴代県賞一覧（平成12年～平成21年）

年度	校種	研究主題	学校名	学年	研究者名（グループ名）
H12	小	セミの羽化 2000	池田小	6	池邊 大輔
	中	土壌分析と塩害からの回復の研究	小川中	3	選択理科 久保麗紗 他4名
	高	アブラコウモリの活動の季節変化	熊本西高		生物研究部 コウモリ班
H13	小	クモのすのかけ方	津森小	2	酒瀬川峻士
	中	土壌生物は植物生育にいかに関与しているか	小川中	3	土壌生物研究グループ 奥田優子、広瀬公美 永井辰也、杉本裕太、松本篤拓、 他14名
H14	小	逆流する水玉のなぞ	蘇陽小	6	蘇陽小学校6年13名
	中	道の凸凹のでき方の研究	深田中	3	尾方匡輔 ニツ木美佐 高田恭奈
H15	小	野菜における新聞紙の保存力の研究	花園小	6	坂井慶彦 甲斐賢一郎
	中	水滴の落ちる音を聴こう	深田中	3	山下貴行 山口智弘
H16	小	都市のツバメの生態	第一高		山口啓子 山口悠子
	高	熊本市交通センターのヒメアマツバメ			選択理科 自然探究班5名
H17	小	ヤドカリのひみつをさぐれ！	水俣第一小	4	生物部
	高	「たばこの害」って何だろう	泗水東小	5・6	保健委員会
H18	小	スズメの大きなねぐらにはムクドリが来る？	湖東中	2	長尾萌佳
	高	ステンレス電極を用いた電気分解	済々高	3	化学部 清水龍矢 他6名
H19	小	ふよちゃん僕の家に来てるの巻	三岳小	2	三浦こうたろう
	高	赤外線の見えない不思議発見	人吉東小	6	平川絵梨香、大洲千紘
H20	小	盛り上がる結晶の不思議を探る	砥用中	3	3年選択理科
	高	三角西港ではなぜ岸からスナメリが見えるのか	八代高		生物研究部
H21	小	すごいぞ 大津からいもふしぎ大研究	大津北小	3	2006大津からいも研究会
	高	アゾラ（アカウキクサ）の研究Ⅲ	阿蘇西小	6	山本 雅進
H22	小	～バイオマス資源活用チャレンジ～	阿村中	3	選択理科3年 松田祐亨 他5名
	高	上天草市松島町阿村の地質・その6（完結編）	第二高	3	大倉愛美、和久田倫代、田尻啓子 他2名
H23	小	放課後の窓の謎を追え！	本渡南小	1	のなか りゅうせい
	高	ミミズのいるつちはいつち？	亀場小	5	富崎 怜
H24	小	天草下島の二ホンヒキガエル	松橋中	1	中村 朱里
	高	アゲハチョウの羽化と環境条件	熊本工業高		物理部
H25	小	～蛹の色は謎だらけ～	登立小	3	山下慧士
	高	熱と音のエネルギーの相互変換について	万江小	6	橋本 眞子 他10人
H26	小	プロペラのちがいでよる車の進み方について	大野中	3	石井愛美、尾上健吾、 才林千春、白木明日香
	高	その昔万江川で何が起こったか	熊本工業高		物理部
H27	小	～堆積物や地形からの考察と実験～	人吉東小	2	ながたあかり
	高	鉱物が時代を超えて語るモノとは	相良北小	5・6	養田 耀 他5・6年一同
H28	小	気柱共鳴管の中の粒子がつくる構造について	松橋中	3	中村 朱里
	高	さかだちごまにチャレンジ！	熊本工業高		物理部
H29	小	なぜ川辺川は清流日本一なのか？			
	高	人工交配による条件別遺伝学的研究			
H30	小	気柱共鳴管の中の液体による膜の成因と特徴			
	高	～膜にはたらく力の考察～			



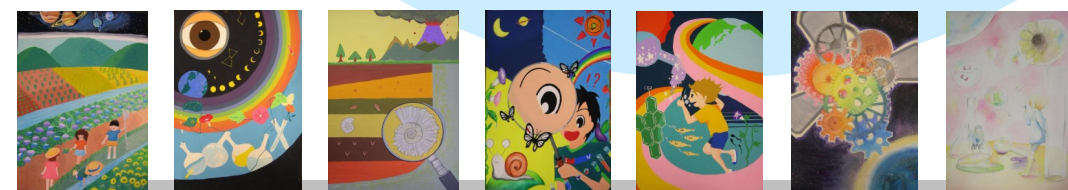
科学展 70回

科学展 URL: <http://www.higo.ed.jp/edu-c/kagakuten/index.htm>

指導のヒントがあります



熊本県立教育センター
〒861-0543
熊本県山鹿市小原
TEL (0968) 44-6611



熊本県科学研究所物展示会は、昭和12年2月に開催された第1回児童生徒創案品表彰展覧会を前導として、戦争による中断など幾多の変遷がありましたが、直接、児童生徒の指導にあたられてきた多くの先生方を初め、科学を大切にする県民の皆様のお力添えのもと、回を重ねる毎に充実発展してきました。今年も、(10/26確定)点を越える優秀な研究作品の中から、珠玉の(10/26確定)点を展示することができました。科学は、その進歩によって豊かさがもたらされるとともに、私たちが直面する地球規模の問題の解決にもその適切な活用と更なる発展が必要とされています。未知なるものに挑戦し、謎の解明や新たな知の獲得を目指す科学研究の重要性は、今後も一層高まっていくことでしょう。こうした共通認識のもと、「科学する心」を育む科学展が70回を迎え、さらに今後も回を重ね、益々発展していくことを願っています。

平成22年11月5日
熊本県立教育センター所長 松本 隆一

未来を拓く「科学展」

今村義隆

科学展70周年を心からお祝い申し上げます。私は、児童生徒の興味や疑問を研究意識として高め、観察・実験などを通して科学的に探究する活動を行い、児童生徒の研究物や発明が多く入賞することができ感謝しています。

また、各地区の科学展・県科学展審査等に携わり、自然の事物・現象をテーマにした継続的な研究やアイデアに出会い、人間の持つ探究心と英知の素晴らしさに感動しました。

科学展の営みは未来を拓く人づくりであり、夢を育む科学展となることを期待しています。



科学展で人生を豊かに

阪本英晴

初任校で、ウミガメの謎解明に熱心な先輩教師の姿、子ども達の探究する姿、その作品の出来栄えに感銘を受けた。それ以降、私は子ども達と共に地域や身近な素材の謎解きに取り組んだ。一番楽しかった思い出に科学研究をあげる生徒にも出会った。私は長年菊池郡市科学展の運営に携わってきたが、多い年では千人近い出品があった。関係者には大変感謝している。科学展には、自然、自分、人との対話があり、人に必要な資質(思考力・判断力・表現力)を養う糧となる体験がある。



自分にとっての科学展

平塚勝一

50年程前の自分の中学生時代の科学展について考えてみた。中1で「花色素について」、中2で「メッキについて」、中3で「イモリの尾の再生について」に取り組んだ。どの作品も県展で好成績を収めることが出来た。これも当時の理科の先生の指導のおかげである。夜9時頃まで指導していただいた。その当時、発売された棒ラーメンをピーカーで作って先生と食べてがんばった。また、その当時は車がありませんでしたので先生のスクーターの後ろに乗せてもらって家へお帰っていただいたことを覚えている。その先生の影響で自分も中学の理科の教師になり、へき地の中学校で科学展の研究を指導した。夜遅くまで生徒と頑張っていると、保護者の方々が握り飯や豚汁を持ってきてくださった。山間地の小さな中学校の生徒に必ず1枚は県代表の表彰状を握らせて自信をつけさせたいという思いであった。科学展は自分の理科教師としての原点である。



やる気と自信を醸成する

科学研究・発明工夫

立山徳明

山鹿市立平小城小学校の特色の一つは、すべての児童が数ヶ月間に渡って科学研究又は発明工夫のいずれかに取り組み、十月に実施される鹿本郡市科学展・発明工夫展に出品することである。また、熊本県科学展・発明工夫展においても毎年のように入賞している。さらに、意図的・継続的な取り組みが認められ、昭和五十五年と平成三年の二度に渡り創意工夫育成功労校として科学技術長官賞を受賞している。これらはすべて、教師の教導に応えた児童達が実現したものであり、科学研究・発明工夫は、今や平小城小学校の伝統の一つに数えられ、児童のやる気と自信を醸成している。

県科学展70回に寄せて



研究物指導を振り返って

潮崎睦子

科学の研究は、装置の作成、実験観察を通してのデータ収集、そのデータの分析といった地味な作業の連続だが、それを面白いと感じるタイプの生徒がいる。科学展はそのような生徒に活躍の場を与えてくださった。

また研究を通じ、技術立国日本の貴重な人材が育っているのかもしれない。そう思うと指導する立場としてもやりがいのある日々を持つことができた。研究の合間に、普段の授業ではなかなかできない、自然観について話し合ったことも楽しい思い出である。



科学展の思い出

岩永純二

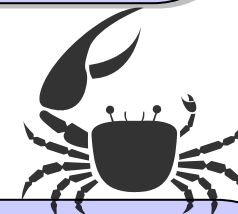
社会人となった教え子達と、思い出話に花を咲かせることがある。「作品は大事に持っています。」とか、「科学研究を通して学んだことが、今の仕事や生き方に役立っています。」等ということを知ると、試行錯誤しながら悩んだことが楽しい思い出としてよみがえってくるから不思議なものである。個人的にもセンサーを利用した理科教具の開発をライフワークとしてやってきた。素晴らしい先輩諸氏と出会い、切磋琢磨することで、「継続は力なり」「一生懸命に打ち込んでいる時には何事も苦ではない」という教訓を学ぶことができた。今後も、科学研究を通して「科学する心」をもった子ども達が数多く育っていくことを願っている。

こんな豆腐も出来るんだ

村田十五郎

「豆腐は大豆から作る言うけど、どうも信じられん」素朴な子どものつぶやきだった。集められるだけの豆を集め、豆腐づくりを目指した。勿論、数種の豆でしかできなかつたが、にがりの量や水温、容器の形や大きさ、堅さなど、研究の要素は多々あった。

残念ながら、賞は取れなかつた。でも、砂糖入りの甘い豆腐、食紅で染まったピンク色の豆腐もあった。「わー、おいしくない。」と言いつつも、嬉しそうに食べていた子どもの目は輝いていた。今でも、冷や奴を食べる時、ふと思い出す。二十数年前の夏だった。



科学展に寄せる私の想い

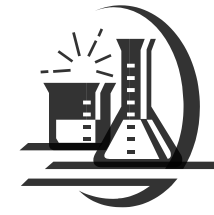
橋野由美子

「1度に何匹のハエが生まれて飛んでいくの？」20年前の小学生の作品を見たときの笑いと感動は今も鮮明だ。彼女は家族に餌が臭いと反対されながらも、祖母の助けを借りてこの研究をやり遂げた。「私たちの」がつく本研究展の魅力はここにある。出た結果は何匹でも良いのだ。研究は、言われたことをそのままやって決まった一つの答えを出すことよりも、小さな事にでも疑問をもち自分の考えをはっきり主張して成果に結びつける事が最も重要なのだ。題名をみただけでわかる発想の面白さ。主体的に取り組む事でしか得られない自分なりの答えが見つかった喜び。ちょっぴり誇らしくなるその経験が子どもの豊かな個性を伸ばし将来の財産となるであろう。「私たちの科学研究」に一人でも多くの子ども達が携わり、その経験を糧として人生を豊かにしてほしいと願っている。

「科学展」を永遠に！

鶴田孝三

33年前に科学展と出会った。県外出身の私は、この年博物館で初めて見た研究作品に感動した。科学展は児童の科学的思考力や表現力を高めるばかりでなく研究過程で子ども相互や児童と教師との心の絆をも強めてくれる。今まで自然の中で展開してきた研究活動は鮮明に心に残る。教えるのではなく子どもと一緒に自然を調べ感動を味わうつもりで積極的に参加してほしい。数々の思い出を私にくれた科学展の歴史が永遠に続くことを願う。



県科学展70回記念にあたって

富崎純弘

熊本県科学研究物展示会が、今年70回を迎えたことに対しお祝いを申し上げます。私は、子どもたちとともに科学展に取り組めたこととてもありがたく思っています。それは、マドボタルやヒメボタル、ニホンヒキガエル、ハクセンシオマネキ等の様々な天草の生き物に出会い、自然のすばらしさや神秘性を実感できたこと。作品作りを通して子どもたちや保護者の皆様とのつながりが深まったこと。そして、子どもたちが、その後も科学研究に取り組んだり、理科や科学研究を生かした進路を選んでくれたりしたことを嬉しく思います。

科学展の思い出

西田孝宏

生徒達が「地盤の液状化現象の研究」に取り組んだ直後、阪神大震災が発生しました。生徒達は、研究した現象が、現実となって目の前に現れたことに驚き、研究の大切さを実感するとともに、地震の被害や対策について考えを深めていきました。

生徒達は、試行錯誤して器具や方法を考え、実験し、記録し、グラフ等にまとめて考察することまで経験します。

科学展への取組は、創意工夫する能力や科学的な思考、態度が育つと思います。



